

我が国周辺の安全保障環境

朝鮮半島の緊張の高まり
 韓国海軍哨戒艦「天安」北朝鮮による韓国延坪島沈没事件(10年3月) 北朝鮮による韓国延坪島砲撃事件(10年11月)

北朝鮮による核実験 弾道ミサイル能力の増強
 我が国上空を超えるミサイルの発射(09年4月) 核実験実施の発表(06年10月、09年5月)

北朝鮮の新体制の構築
 金正日国防委員長が死去し、金正恩氏が朝鮮人民軍最高司令官に就任(11年12月)

中国による我が国近海などにおける活動の活発化
 複数の中国H-6爆撃機が、日中間線付近まで進出(07年9月)
 樺(天外天)ガス田付近を中国ソブレメンヌイ級駆逐艦が航行(05年9月)
 中国機2機が尖閣諸島の領空まで約50kmに接近する飛行(11年3月)
 中国公船2隻が尖閣諸島周辺の我が国領海に侵入(08年12月、11年8月)
 海保巡視船と中国漁船の衝突事件後、中国漁業監視船が尖閣諸島周辺の我が国領海近くを複数回にわたって航行(10年9月)
 中国原子力潜水艦潜没航行事案(04年11月)

中国による海洋調査(台湾問題への対処以外の任務のための能力獲得)

中国の活動活発化に伴い 周辺諸国との摩擦が表面化

北方領土問題
 メドヴェージェフ露大統領 国後島訪問(10年11月)

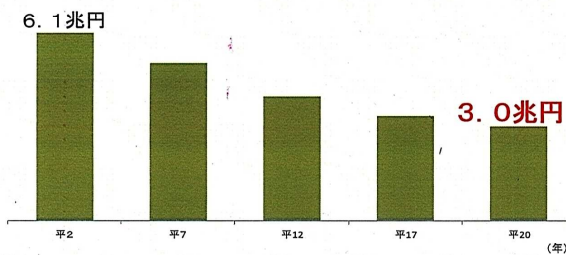
極東ロシア軍による活動の活発化
 露Tu-95が伊豆諸島沖を領空侵犯(08年2月) 露、大規模演習「ヴォストーク2010」を実施(10年6月~7月)
 露爆撃機が日本周辺を一周する形で我が国領空近くを飛行、露艦艇24隻が宗谷海峡を航行(11年9月)

中国海軍による遠方海域での作戦遂行能力の向上
 ソブレメンヌイ級駆逐艦等4隻が中国海軍戦闘艦艇として初めて津軽海峡を通過し、我が国を周回(08年10月)
 沖縄近海と伝えられる国際水域で、中国ソソ級潜水艦が米空母キティホーク近傍に浮上(06年10月)
 キロ級潜水艦、ソブレメンヌイ級駆逐艦等中国艦艇10隻が沖縄本島と宮古島の間を抜けて太平洋に進出。海自護衛艦に対して中国艦載ヘリが接近飛行(10年4月)
 過去最大規模となる計11隻の中国艦艇部隊が沖縄本島と宮古島の間を抜けて太平洋に進出。無人機の飛行訓練や夜間におけるヘリ発着艦訓練などを実施(11年6月)

注:中国軍関係者は、海軍の作戦海域上の概念として「列島線」を想定していると指摘されている。「列島線」の位置は、米国防省「中華人民共和国の軍事・安全保障の進展に関する年次報告2010年版」中の図表等を参考)

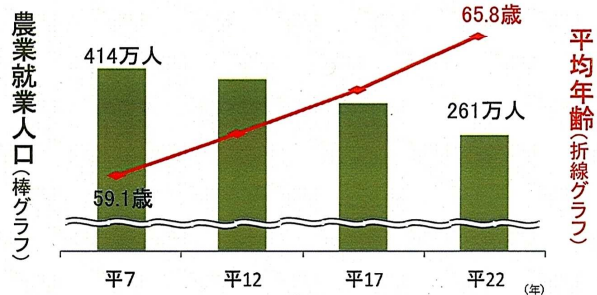
我が国の農林漁業・農山漁村は厳しい状況

農業所得は約20年で半減



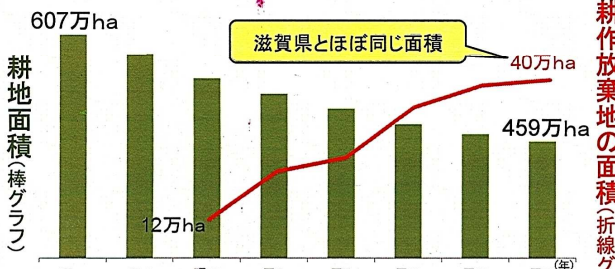
資料:農林水産省「農業・食料関連産業の経済計算」

農業就業人口は減少、その平均年齢は65.8歳



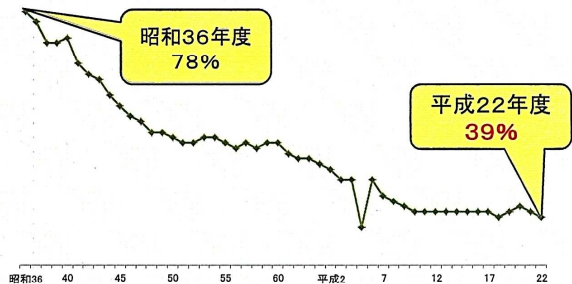
資料:農林水産省「農林業センサス」

耕作放棄地面積は40万ha



資料:農林水産省「耕地及び作付面積統計」、「農林業センサス」

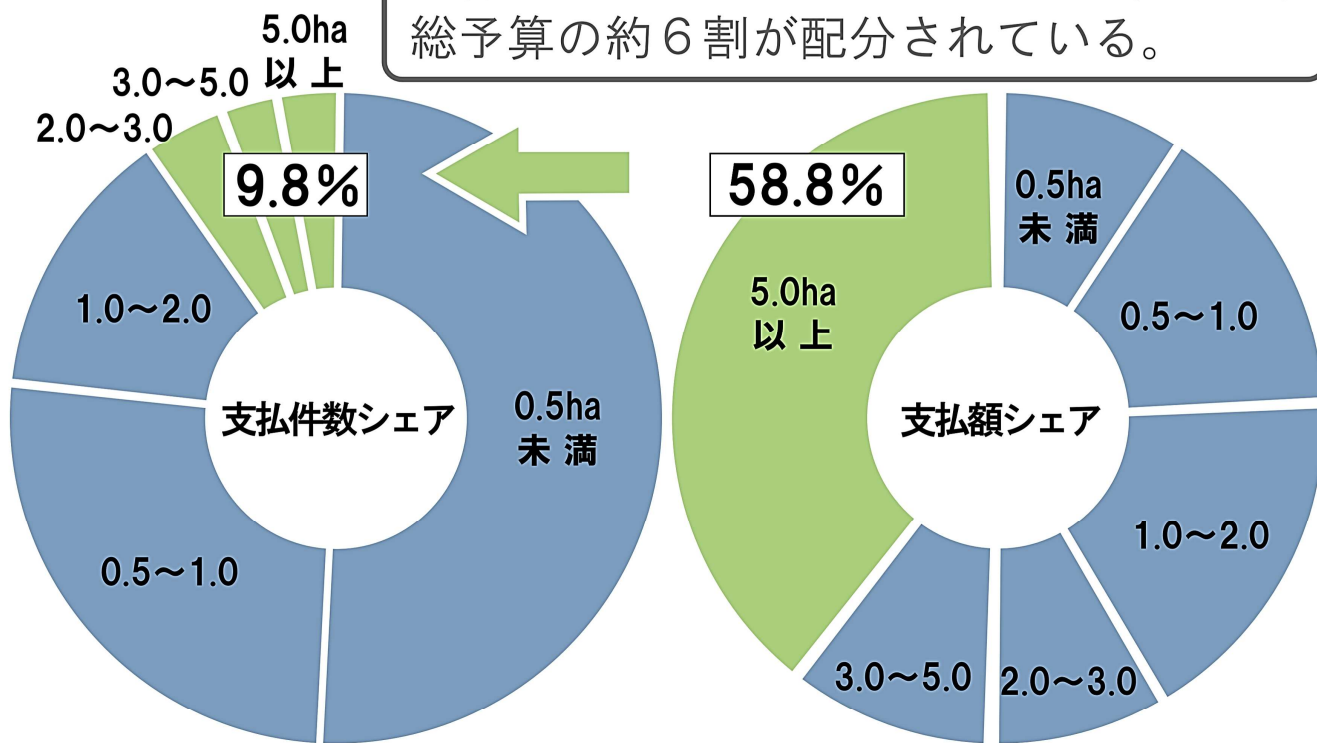
カロリーベース食料自給率は39%に低下



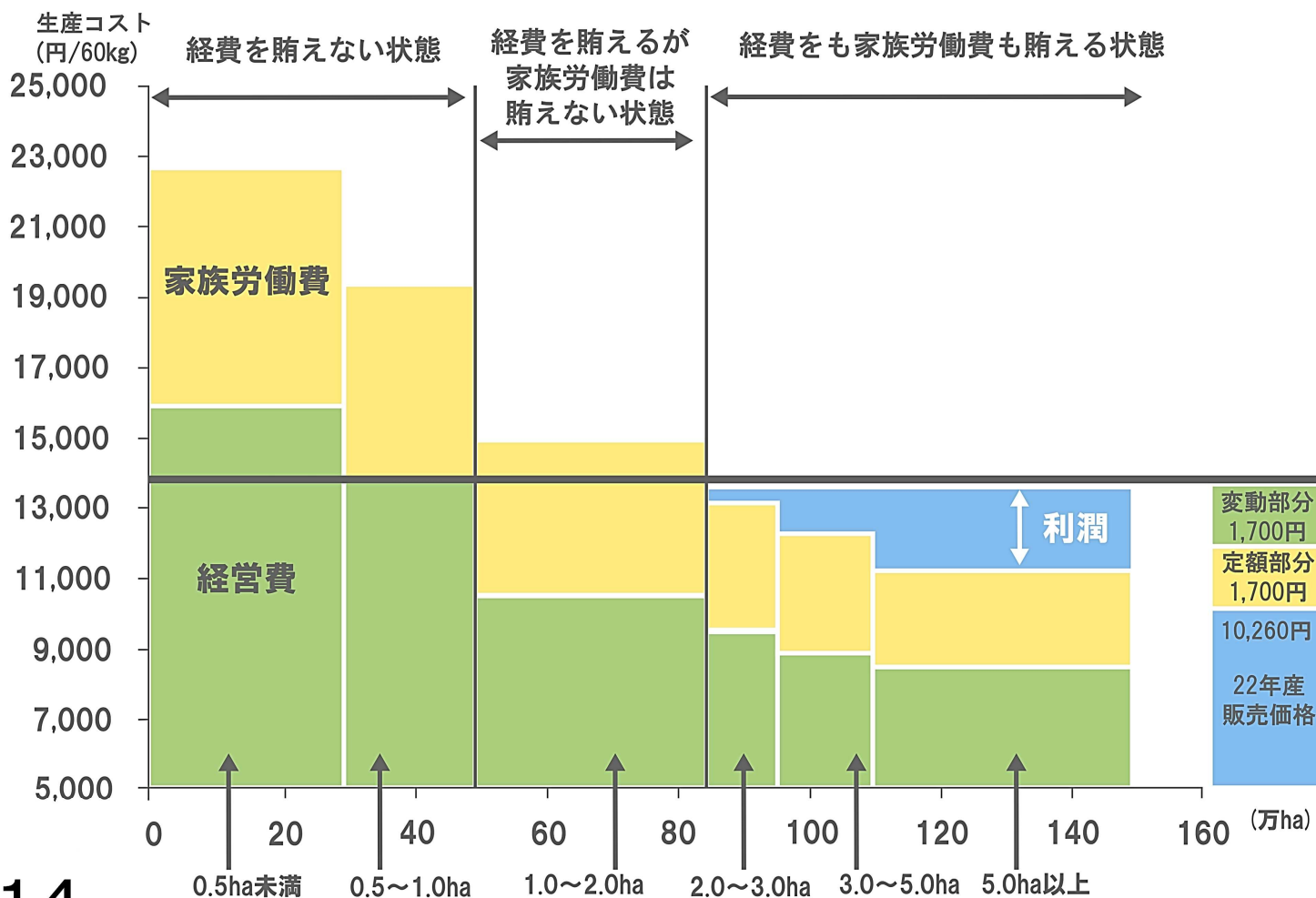
資料:農林水産省にて計算

米の所得補償交付金の作付規模支払状況

全体の9.8%しかない2.0ha以上の農家に、総予算の約6割が配分されている。

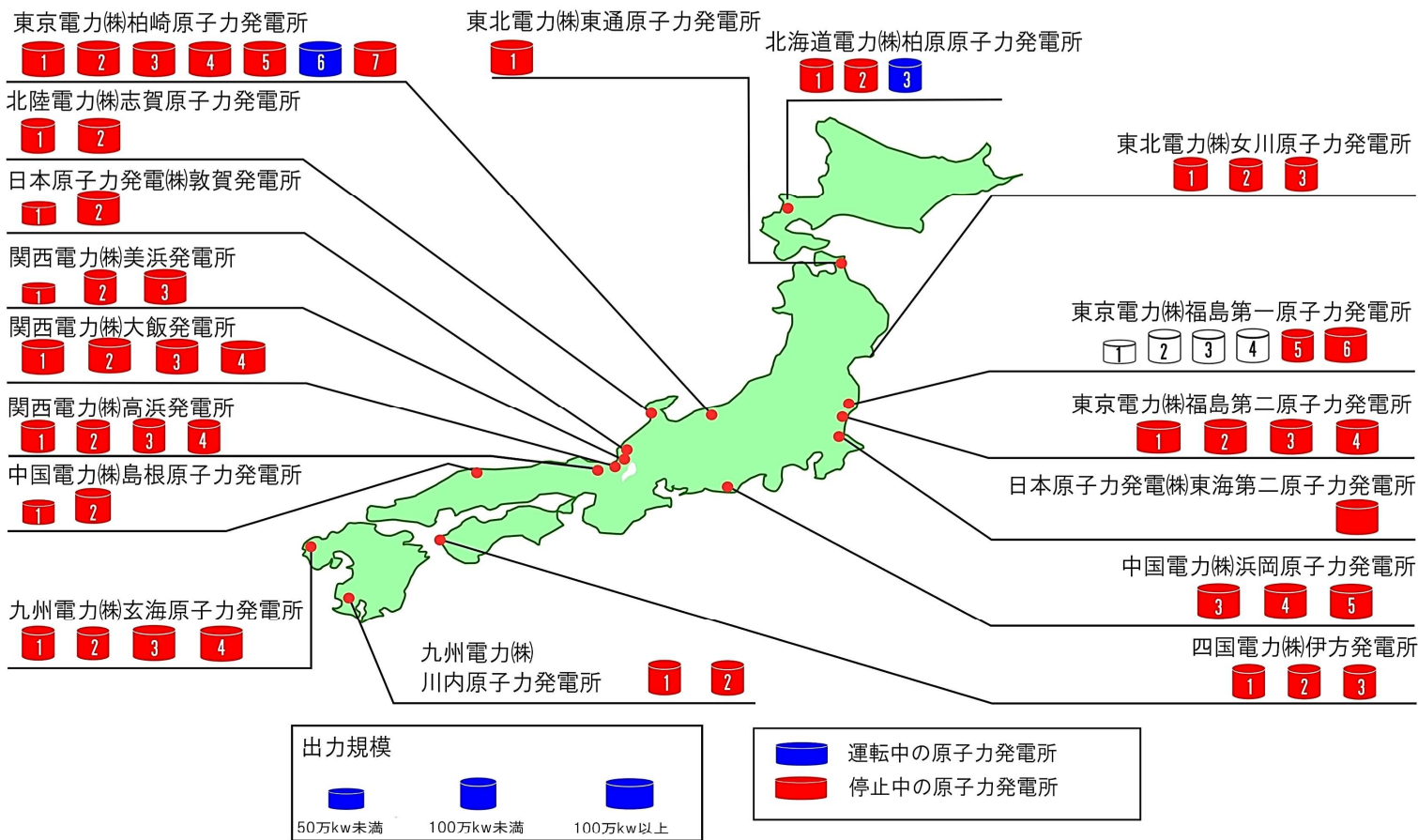


水稲作付規模別の経営状況 (戸別所得補償実施の場合)



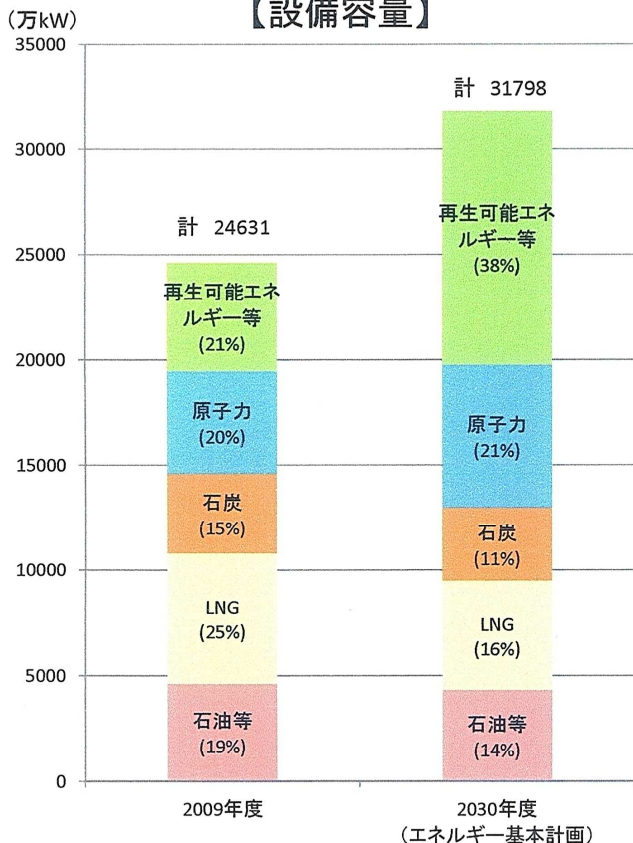
原子力発電所の運行状況について（3月19日現在）

国内の原子力発電所54基（ただし、東京電力は、福島第一原子力発電所1～4号機の廃炉を決定）のうち停止中のもの（赤）が48基、運転中（青）が2基。

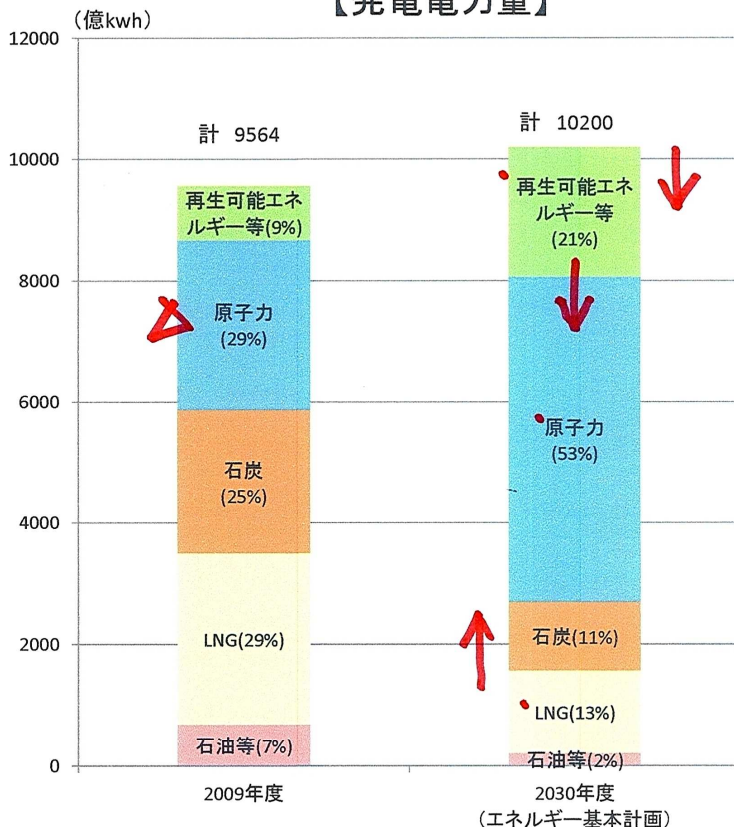


2030年のエネルギー供給見通し

【設備容量】

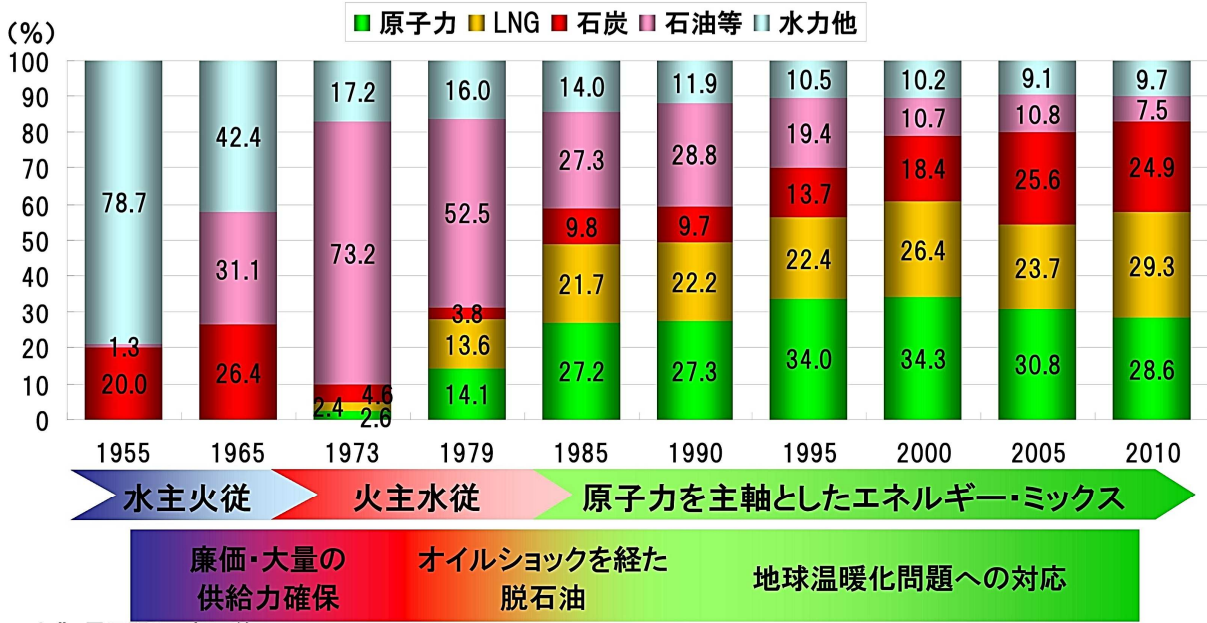


【発電電力量】



I 我が国のエネルギー政策の変遷と電源多様化

- ◆ 社会情勢やエネルギー政策の変遷を踏まえ、多様な選択肢を持つ電源構成を構築
- ◆ オイルショック以降、約40年を費やして電源構成のリバランスを達成してきた点を踏まえ、時間軸も意識したエネルギー・ミックスのあり方を検討すべき
- ◆ エネルギー資源の大部分を輸入に頼る日本では、特定のエネルギー源に依存するのではなく、バランスの取れた電源構成とすべき



出典：電源開発の概要等

今夏の電力需給対策

- ◆ エネルギー・環境会議では、今夏のピーク電力不足(1,656万kW, ▲9.2%)に対し、需要抑制(▲980万kW)、供給増強(+642万kW)の対策を掲げている
- ◆ これらが最大限効果をあげた場合、需給ギャップは縮小されるが(▲34万kW)、それでも、最低ラインとされる予備率3%(+540万kW)を大幅に下回ることになる
- ◆ さらに、エネルギー・環境会議では、需給ギャップが拡大するリスクとして、

- ・気温の変動
- ・電力会社の供給力脱落
- ・揚水汲み上げ電力不足

等を挙げており、電気事業者として供給義務を果たすに当たり、重大なリスクも内包

<今夏のピーク電力不足への対応>
～エネルギー・環境会議資料より抜粋～

